



地域との共生

社会に提供する価値

- 住みたくなる、行きたくなる沿線づくり ●鉄道の強みを活かし、地域一体となった観光振興
- 地域と連携し、エリアに即した事業展開による地域の活性化

基本的な考え方

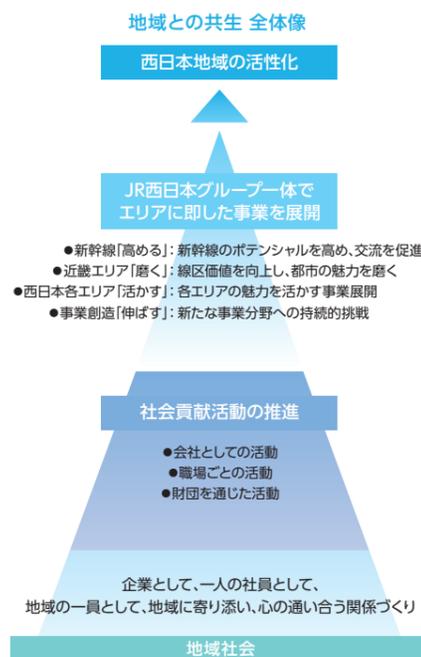
推進責任者
取締役兼専務執行役員
総合企画本部長
緒方 文人



鉄道を核に事業を営む当社は、地域を離れては存在しません。全国各地で地方創生に向けた動きが広がりを見せており、具体的な取り組みの成果も現れてきている中、当社グループは地域とWIN-WINの関係を構築し、共に地域の活性化を図っていくことにより、当社グループの持続的成長につなげていきます。推進中の「JR西日本グループ中期経営計画2017」においても「ありたい姿」として「地域共生企業」となることを掲げており、同計画にある「次の一歩へ。地域と共に。」という言葉に当社グループが共有する「目標」と「決意」を込めています。

具体的には、各エリアにおいて地域の皆様との対話を重ね、当社グループと地域の皆様が人的ネットワークを構築し、地域の課題やニーズを共有しながら、地域としての「ありたい姿」を一緒になって模索していくことが大切だと考えています。

その上で、駅周辺整備や観光誘客、地域交通、エリアに根ざしたビジネス展開などにおいて、自治体や地元企業などと連携を深めることで、長期継続的に成長する「エリア経営」の実現を目指しています。また、地域が抱える課題に対して、当社グループの特性を活かして解決に貢献する取り組みにも力を入れています。



Plan <近畿エリア>線区価値を向上し、都市の魅力を磨く

Do 鉄道を中心とした「住みたくなる」沿線づくりや、「行ってみたい」「乗ってみたい」と思っただけのような線区づくりを推進

駅改良や生活関連サービスの充実を通じた線区価値の向上

エリアの特色を活かしつつ線区価値の向上を図るため、街づくりや再開発と一体で駅や駅周辺の整備を進めています。また、駅が地域の拠点となるよう、バリアフリー化、駅美化などを進めています。併せて、駅ナカ・駅ビル開発や生活サポート施設の設置などにより、暮らしを豊かにするサービスを充実させています。

■新大阪駅改良

新大阪駅は、より利便性の高い快適な駅を目指し、リニューアル工事を進めています。これまで、お客様トイレおよび待合スペースのリニューアルを実施し、「エキマルシェ新大阪」がオープンしました。また、ホームの段差解消、エスカレーター新設、美装化などの改良工事を順次行っています。



新大阪駅コンコース

■大津駅リニューアル

大津駅は、駅舎の外装改修やお客様トイレの改修等により、駅をご利用いただくお客様の利便性を高めるとともに、「お客様が降りて、立ち寄る駅」をコンセプトに、2016年10月に「ピエラ大津」を開業しました。大津駅が地域の皆様や大津を訪れる観光客の方の「集いの場」となることを目指しています。



ピエラ大津

私の次の一歩



「ピエラ大津」の開発に携わり、駅の利便性と街の発展のつながりを実感

「ピエラ大津」の開発にあたりこだわったのは「地元色を出すこと」でしたが、「大津駅＝どこかに行くために使う駅」というイメージが強く、テナントの誘致はスムーズにいきませんでした。入社して間もない私は「地元の皆様が気軽に立ち寄る駅にしたい」、そんな強い思いを持って交渉しました。

開業後、駅に大勢のお客様が集っている様子を見て感動し、駅の利便性を高めることが街の発展につながっていくことを実感しました。これからも、人が集い活気ある「駅からはじまる街づくり」を進めていきます。



JR西日本不動産開発(株)
後藤 創

Do 自治体や地元企業・学校との連携推進

自治体や地元企業・学校と連携し、エリアごとの特色を活かしながら賑わいを創出するなど、線区価値を向上させる取り組みを進めています。

トラベルサービスセンター大阪開業

近年増加している国内外から大阪にお越しのお客様のおもてなしの一環として、2017年3月に大阪府、公益財団法人大阪観光局と共に、大阪駅に観光案内や旅行に関する相談対応、外貨両替、チケット販売などのサービスを一体的に提供する「Travel Service Center OSAKA」を開業しました。



「Travel Service Center OSAKA」

鳥取生まれの高付加価値マサバ「お嬢サバ」の陸上養殖事業開始

当社と鳥取県、岩美町は「陸上養殖事業における連携に関する協定書」を2017年1月に締結し、当社は鳥取県岩美町に整備した陸上養殖設備での「お嬢サバ」の養殖を2017年6月に開始しました。今後も新たな産業を振興し雇用を創出することにより地域活性化に貢献していきます。



協定書の調印式

社外の方からの声



大阪の玄関口で、JR西日本と連携しながら観光客の方々を全力サポートします！

増え続ける大阪への観光客。それに合わせ、観光案内所にも進化が求められています。大阪府は2017年3月、観光案内だけでなく、旅行中のトラブルへの対応や外貨両替等、さまざまな観光客のニーズに対して、これまでにないサービスを提供するため、JR西日本、大阪観光局と連携して「Travel Service Center OSAKA」を開業しました。

大阪へお越しのすべての皆様にとって素晴らしい旅行になるよう、JR西日本と連携しながら全力でサポートいたします。



大阪府府民文化部
都市魅力創造局企画・観光課
観光環境整備グループ
主査 山下 麗賢 様

Plan <西日本エリア>エリアの魅力を活かす事業の展開

Do エリアの観光振興や活性化、エリアに則した事業を展開し、地域を活性化します

自治体や地元企業と連携し、それぞれのエリアの持つ魅力を活かす事業を展開しています。人的ネットワークづくりを進め、地域と共に魅力ある資源を再発見し、地域内外に情報発信しています。併せて、地域交通のおかれた現状や将来の姿を地域の皆様と共有し、次世代に向けた解決を目指す取り組みも進めています。

岩国駅橋上化

鉄道により分断されている山陽本線岩国駅周辺の東西一体化の促進と、交通結節点の強化を図るため、自由通路の新設および駅前広場の再整備に合わせ、駅舎を橋上化し、バリアフリー化を行っています。また、駅西側には商業施設と市の観光案内所やバスの待合所を整備します。2017年11月に新しく生まれ変わる岩国駅が、活力と交流のあふれる中核都市づくりに貢献します。



岩国駅橋上化イメージ

福井支店開設

2017年6月に福井県内の拠点として、金沢支社福井支店を開設しました。2022年度末に予定されている北陸新幹線敦賀開業に向けて、地域の皆様との連携により、観光素材の整備、地産品の掘り起こし、またそれらの情報発信など、魅力向上に取り組めます。



(左から) 仲野 勲、笹田 修司、支店長 梶井 浩一

歴史的建築物を活用した地域活性化

2017年6月、当社は古民家の再生を手掛ける株式会社NOTE(兵庫県篠山市)と物件運営のバリューマネジメント株式会社と提携しました。地域の歴史的建築物をリノベーションし、宿泊施設などに活用する事業を当社エリア内へ拡大することで、地域の抱える「観光振興」「雇用創出」等の課題解決につなげていきます。



3社の提携ロゴマーク

！ハイライト

福知山支社地域連携推進室の取り組み

2016年6月に発足した福知山支社地域連携推進室は、地域との連携ネットワークの構築および地域の魅力発掘・創造・発信に取り組んでいます。中でも、北近畿エリアの「いいもの」の発掘・発信において、地元の大学や金融機関との連携を進めています。特に、福知山公立大学とは、城崎温泉駅構内店舗「おみやげ街道『但馬・丹後いいものショップ』」や大阪駅での「但馬・丹後いいものマルシェ(2017年5月13日、14日)」などにおいて連携した活動を進めています。今後も北近畿エリアの「産学連携」で地域の元気に貢献していきます。

また、沿線住民の皆様にもっと当社に関心と愛着を持っていただくために会員制のファンクラブ「北近畿JRコラボサークル」を立ち上げました。2017年4月に会員イベントを開催し、「北近畿エリアにおけるJRの現状とあり方」などをテーマに会員の皆様との意見交換などを実施し、参加者からご好評いただきました。今後も、さまざまな形で地域との連携を深め、「地域の中のJR西日本」として、地域と共に発展していく可能性を追求していきます。



2017年5月 但馬・丹後いいものマルシェ



2017年4月 北近畿JRコラボサークル

産学連携による人づくりを進めています

当大学では、地域課題に挑戦する「地域協働型実践教育」を通じて、地域で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。JR西日本とは、地域産品のPR方法を考え、実践する取り組みを連携して進めています。生産者への取材や販売にかかわることは、地域課題を肌で感じることができるため、学びが深まります。また、学生がデザイン等に参画した広報物が地域産品のPRや販売につながるなど、お互いにとっていい形で活動が進んでいます。今後も、人と知識の集まりから新しい何かが生まれるような活動を共に進めていきたいです。



福知山公立大学 地域経営学部 助教 江上 直樹 様

Do ご利用状況に応じた持続可能な地域交通を目指します

それぞれの沿線における地域づくりの将来の姿にどのような地域交通がふさわしいか、地域の皆様と向き合い、ご利用状況に応じた持続可能な地域交通を地域と共に検討していきます。

なお、2018年4月1日には三江線沿線地域において、鉄道に代わる新たな交通ネットワークが構築されます。地域ニーズに合った持続可能な地域交通となるように、引き続き地域の皆様と共に検討を進めていきます。

Plan 社会貢献活動のさらなる充実

Do 地域社会に貢献する取り組みを推進

地域と共に生きる企業として、地域イベントへの参加や安全教室など地域に根ざした活動を行うとともに、地域が抱える課題の解決に貢献する取り組みにも力を入れています。

詳細な活動実績は当社ホームページをご覧ください。
HP <http://www.westjr.co.jp/company/action/region/>



JR西日本あんしん社会財団の取り組み

「安全で安心できる社会」に寄与する事業を行っています。いのちをテーマに、自らを見つめ考える機会を広く提供する「いのちのセミナー」や、地域社会の安全について考える「安全セミナー」、救命処置の普及啓発を目的とした「いのちのリレー大会」やAED訓練器の助成、そして、安全で安心できる社会づくりに取り組むNPO法人や地域の団体などへの助成を継続的に行っています。



2017年5月 「いのちのセミナー」を開催

京都鉄道博物館を中心とした鉄道文化活動

2016年4月に開業した京都鉄道博物館は、「地域と歩む鉄道文化拠点」を基本コンセプトとして、地域の活性化と鉄道文化の発展に取り組んでいます。当社は、この京都鉄道博物館を中心に鉄道の歴史と文化を後世に継承していくための活動を行っています。



京都鉄道博物館

社外の方からの声



災害に強い地域づくりを目指して

私たち稲野自治会は、JR西日本あんしん社会財団からの助成を活かし、2015年から大手前大学や伊丹市等と共に災害に強い地域づくりを目指して「防災フェア」を行っています。私たちの住む地域はこれまで大きな災害に遭っていないため、「防災フェア」では、子どもたちに災害を身近に感じてもらう「段ボールによる避難所づくり体験」を実施しました。今後も楽しみながら防災に関する知恵を得られ、地域が一体となって災害に備えられるような取り組みを実施していきます。



防災フェア



兵庫県伊丹市 稲野自治会 会長 松村 孝之 様(右)、副会長 森近 勝行 様(左)

CHECK 地域の皆様と「ありたい姿」を共有する具体的取り組みが進展

地域との共生に向けた取り組みが進捗し、地域活性化の兆しが見えつつある取り組みも出てきています。さまざまなエリアでの駅を中心とした「住みたくなる沿線づくり」、地域産品の発掘・発信などの取り組みが深度化し、地域が成長する活力になりつつあります。

社会貢献活動については、京都鉄道博物館を中心とした鉄道文化活動や、同じ地域の職場間で連携した安全教室の取り組みなど、地域に根ざした活動が増えつつあります。毎年定期的に行っている企業レピュテーション調査では「地域社会に貢献している」という項目の評価が過去数年のトレンドとして上昇してきており、当社が「地域との共生」に取り組んでいることが少しずつ社会に認識されてきていると考えています。

ACTION エリアの魅力を再発見・発信するとともに、エリアの強みを活かした事業を具体化していきます

エリアに則した事業を展開するため、地域の皆様との人的ネットワークを構築し、活かすことにより、観光や地域産業の振興を図り、地域の活性化につなげていきます。また、各種の取り組みを一過性のものとせず、持続性を持たせ、成果の定着化を目指します。

近畿エリアでは、引き続き、「住みたくなる沿線づくり」や「行ってみたい」「乗ってみたい」と思っていたりするような線区づくりを継続し、線区価値の向上を図っていきます。

西日本各エリアにおいては、観光ルートの開発や、エリアの魅力を再発見・再評価し、発信する取り組みを継続して行っています。また、発掘したエリアの魅力について、2017年6月から運行を開始した「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」を動く情報発信基地として活かすなど、観光や地域産業の振興を推進していきます。

社会貢献活動については、地域に根ざした取り組みを継続・深度化することに加え、地域の課題解決に貢献する取り組みにも引き続き力を入れていきます。